

『自然との共生、日本文化の発信』

平成7年、6千人が死亡した阪神淡路大震災を経験し、今年3月11日に東北地方を襲った大震災と津波は、2万人を超える死者、行方不明者を出し、原子力発電所事故も重なった。

万全に思われた日本最長の高い防波堤も、津波により軽がると乗り越えられ、田畑や家屋敷、人や家畜が押し流された。人間の英知のはるかに及ばない自然の猛威、破壊力のすごさを見せ付けられた。タイの大洪水を始め、大雨による洪水被害も昨年は世界各地で発生した。

昔から言われていた、自然と共生して生きることの大切さを改めて考えるよい機会になった。

明治以前、江戸時代の人々は、里山や農家の暮らしに見られるように上手に自然と共生し、循環型の社会を形成して生きてきた。明治以後、産業革命の影響を受け、特に近年は大量のエネルギーを消費する大量生産、大量消費の時代になってきた。地球の人口も過去半世紀で倍増し、70億を超えている。今世紀の終わりには100億の人口が予想されている。このままの状態が続けば、温暖化とともに、地球の自然は破壊され、大変な状態になるといわれている。

100年、1,000年後、人類が幸せに長寿を過ごせるには、限りある地球資源を有効利用し、環境に配慮して、上手に生きるしか方法は無いと思われる。

イギリスのブレア元首相は最近の回想録で日本には、特筆すべき文化があり、それを来日のたびに楽しんだと書いている。日本には古来よりの、神道、仏教などの立派な宗教や聖徳太子の17条憲法による和の精神があり、農業、世界に誇れる省エネ技術など優れた科学技術が多くある。また世界一の長寿社会を実現させた国民皆保険を持つ医療制度、介護保険制度、日本食文化など世界に輸出できるものが数多くある。

TPPで日本中が大騒ぎになっているが、外国の制度を取り入れることよりも、打って出ることをもっと考えても良いのではないか。農業など、現にそういった企業が出てきているのは頼もしい。

尼崎中央病院 理事長 吉田静雄